

東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～

・豊かな心 ・活きた知性 ・たくましい体

発行責任者 尾崎 朋子
文 責 佐々木正道

発行日 平成30年11月30日

いじめのない学校をめざして～「恕」の心

校長 尾崎 朋子

例年になく遅い初雪となりましたが、1日ごとに冷たくなる風に、確実に厳しい冬の訪れが近づいていることを感じます。朝、玄関に立って生徒達の様子を見ていると、しっかりと防寒対策をしてくる生徒もいれば、氷点下の気温なのにブレザーだけで登校してきている生徒もあり、心配です。本校では先週からインフルエンザを発症した生徒が増えてきています。生徒達が健康であることが一番ですが、CMでも「頭寒足熱」は頭が働くとっているように、健康面に気を遣うことで学習面にもよい効果があると考えます。これからの時期、ご家庭でのお子様の健康管理をよろしく願いいたします。



さて、11月22日に本校では「いじめ撲滅集会」を行いました。普段の生活の中で何気なく行われていることがいじめにつながることもあることを理解し、いじめは絶対に許されないということを全校生徒で再確認したところです。

中国の論語にこんな話がでてきます。紀元前に、孔子という思想家で哲学者がいました。ある日、その孔子の弟子が師匠の孔子に尋ねました。

「先生、たった一言で、それを守っていれば間違いのない人生が送れる、という言葉はありますか？」すると孔子は、それは「恕」であると答えました。「恕」の意味は、「己の欲せざるところ人に施すことなかれ」つまり、自分がされたくないことは人にしてはならない、それが「恕」だと孔子は言ったのでした。「恕」とは要するに「思いやり」ということです。自分のことと同じように人のことを考える、そのことこそ、人生で一番大切なことであり、「恕」の気持ち、優しい思いやりを忘れなければあなたはきっと幸せな人生を送ることができるでしょうということを伝えたかったのではないのでしょうか。



はるか昔に孔子の言った言葉ですが、このことは現代にも通じることだと思います。4月に、生徒に取り組んでほしいこととして3つのことを示しましたが、その中の1つ、「人の心の痛みがわかるようになること」がいじめをなくすことにもつながると思います。残念ながら、本校では「いじめはどんなことがあっても絶対に許されないことだと思いますか」という質問に「はい」と答えた生徒が、100%ではありません。この集会をきっかけとして、相手のことを考え、人とかかわりを大切にできる生徒になってほしいと願っています。